



- 和歌山県有田郡有田川にある「あらぎ島」(日本の棚田百選に選ばれた景色)

発行=日吉町森林組合 〒629-0341 京都府南丹市日吉町殿田尾崎8-1
Tel=0771-72-0017 Fax=0771-72-1375
E-mail=h-sinrin@fancy.ocn.ne.jp
<http://www.720017.or.jp/>
2016年7月発行

新たな林業ウェア



(株)モンベルは、日本の第1次産業（農林漁業）を元気にしたいという思いから、自社製品のラインナップにワールドウェアシリーズというカテゴリを作り、農業用製品を中心に商品を展開されてきました。

そして、待望の林業用製品が開発され、6月に開かれた展示会にて正式に発表されました。それが、右の写真にある「バリステックウルトラロガーパンツ」です。これは一般的にはチェーンソーパンツと言われるもので、パンツの前面を強化ポリエチレン繊維6層にし、回転するチェーンソー刃が当たっても、繊維がチェーンソーに巻き付くことで即座に刃の動きを停止させる機能を持っています。このチェーンソーを停止させる機能は、林業先進地であるヨーロッパの規格取得

を現地で進めており、発売（来年3月頃の予定）される時には欧州規格をクリアしたパンツになっているとのこと。また、一番外側の生地は引き裂きに対する強度が極めて高く、作業中の引き裂き破損から作業者を守り、耐久性にも優れています。

チェーンソーパンツは、国内外において様々な種類がありますが、これまで「重たくて暑い」というのが問題で、特にこれからの季節には履いて仕事が出来ないというものでした。その問題にモンベルが取り組み、バリステックウルトラロガーパンツの重量は業界最軽量の部類に入り、後ろの生地も通気性にすぐれたもので、かつ換気用にファスナーを設けパンツ内部の蒸れを和らげる機構になっています。さらには、モンベルがこれまで蓄積してきたデザインノウハウを基に、日本人の体型に最もフィットするデザインになっているとのこと。

今回の林業用製品は、チェーンソーパンツだけでしたが、今後はヘルメット、手袋、シューズなどの開発も検討されていくようです。さらに、林業というと木を伐ったり、造材して搬出したりするという現場作業が重視されがちですが、森

林の状態を確認し適正な施業を計画する森林プランナーの役割も重要で、そのプランナーが森林調査に使うカバンやベストなども検討されるということでした。「森林だより100号」に書きました「林業を「ステキ・格好良い・働きたい」と言われる職業にしたいと思っています。（株）モンベルの商品はその一助になると思いますし、これを機に他社が積極的に商品開発に乗りだし、林業界に活気が出てくる事を期待します。それが結果的に、日本の山間部の活性化に繋がっていく気がします。

もちろん農業用製品も、これまでの「作業着」というイメージから、「おしゃれで機能性に富んだ作業着」になっています。一度「森の道具屋」にお越しいただき、手にとってご覧いただければその良さが分かるかと思えます。



恒例・夏の機械整備会開催!

今年も、草刈りのハイシーズンに突入してまいりました。真夏の草刈作業中に「エンジンがプスン」と止まってしまったり、これほど悲しく疲れる草刈りはありませんよね。そうなる前に皆様が持っている機械の点検・整備を森林組合にさせてください。

「真夏の大会」開催します。

7月23日(土)・24日(日)

両日とも8時半～17時まで

目玉1

機械の点検・修理・目立てが無料!

(部品の交換が必要な場合は、部品代のみ別途必要)

目玉2

草刈機の台数限定タイムセール!

1台2万円を切る草刈機がある! かもしれません

目玉3

ツムラ・チップソーの大特価!

☆定番L型9・10インチ

3枚ご購入で一枚

あたり1,080円

もお得!



☆L型ライト(軽量タイプ)

3枚ご購入で一枚

あたり980円も

お得!

☆L52

3枚ご購入で一枚

あたり886円も

お得!

☆F型ハイパー

3枚ご購入で一枚

あたり500円も

お得!

目玉以外にも、草刈機各種が通常価格よりかなりお安くなっておりますし、23日限定ですが、オレゴン社によるソーチェーンの目立て講習もさせていただきます。

無料の点検・整備等は、草刈機だけではなく、チェーンソーや背負い式動力噴霧器など、小型の農林業用機械であれば対象となります。毎年「草刈機2台あるんやけど2台ともいいかなあ。厚かましいかなあ。」なんて言ってこられるお客様がいらっしゃるようですが、厚かましいな



なんてとんでもないです。2台・3台どころか、4台でも5台でもあるだけ持ってきて下さい。全て無料で点検・整備・修理・目立てさせていただきます。

また「えっ、チップソーも目立てしてくれんの?」と言う方もいらっしゃると思います。もちろんチップソーでも目立てします。2枚・3枚と言わずご自宅にあるチップソー全部持って来て下さい。ただ、チップが3つ4つ飛んでしまっているモノに関しては、目立てをさせていただくより、ご購入いただいた方が良いかと思えます。それも担当が見て、ご説明させていただきますので、「こんなんはあかんやろう」と思っているものでも、取り敢えずお持ち下さい。



和歌山県林業視察について

6月の最後の週末に、縁があつて和歌山県まで森林・林業について勉強に行ってきました。表紙の写真は、その視察時に撮った写真です。

以前、和歌山県の清水森林組合さんが視察に来られた際に、同行されていたマルカ林業（株）さんが、今年の春にもう一度日吉へ来られました。その際に「一度和歌山にも来てくださいよ」ということになり、訪問させていただいたというのが、今回の視察の発端です。

6月25日の土曜日は、マルカ林業さんの現場を見学し、26日日曜日には世界遺産で有名な高野山にある、高野山寺領森林組合さんが管理する高野山の森林を見学させて頂きました。

マルカ林業さんは、約2,500畝の森林を所有する大山主の資産管理会社として設立されたということで、その所有森林の管理経営を年間通じて行っておりません。施業はというと、管理森林の主伐（皆伐）を他の素材生産業者と連携して行っておられ、最近では自社でも作業道を開設し間伐を始めておられるのとでした。

高野山寺領森林組合さんは、高野山真言宗総本山金剛峯寺が所有する、1200年の森林の育成と管理をされている森林組合です。

マルカ林業さんでは、100年生前後のスギ・ヒノキ林の皆伐施業地を見学し、また天然に生えてくるウリハダカエデの天然更新地を見学しました。成木したウリハダカエデからはメープルシロップの原料となる樹液を採取されているとのことでした。皆伐地では施業の概要を伺い、その後の育成についても伺いましたが、やはり和歌山県でもスギ・ヒノキの植林地はシカの被害を受け、ほとんどが食べられてしまうとのことでした。それでも自然に任せて、残った木を育てていくしかないということですが、抜本的な解決策はないということです。

高野山寺領森林組合さんでは、1200年という歴史ある森林の育成・管理と、お寺に立っているスギ（約600年生）などの伐採（年間に1件あるかないか程度）を行っておられます。また、手入れが行き届いた森林において、「森林セラピー」も行っておられるということでした。

マルカ林業さんも高野山寺領森林組合

さんも、日吉町森林組合とは違う施業体系であり、何かをそのまま真似をするということではないかと思えます。しかし、マルカ林業さんの皆伐跡地の更新については、遠からず我々が直面する問題であり、持続可能な森林・林業経営という観点からは避けて通れない問題だと思えます。高野山寺領森林組合さんでは、森林・林業の持つ複合的な価値を勉強することが出来ました。

また、それ以上に人というのは大事だと、改めて感じました。マルカ林業さんでは「大西健二」さんという番頭さんがいらつしやう、高野山寺領森林組合さんでは「西田安則」さんという方がいらつしやいました。お二方とも知識が豊富で、何よりも山が好きなんだということが、ヒシヒシと伝わってきました。

私もお二方の姿勢を見習い、これから山に入っていくたいと思います。



山林異動届等の提出について

森林だよりでは毎回のお願い事となっておりますが、左記の事柄について該当される方がおられましたら、組合までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

- 名義人が高齢などの理由で家族内で名義を変更した
- 名義人が亡くなられたので相続をした
- 売買・贈与などで山の面積が増えたり、減ったりした
- 引っ越しをされ住所が変更になった
- 共有林などの代表者や会計責任者が変更になった

組合員の皆様との繋がりを、いつまでも大切にしていきたいと思っておりますので、変更がありましたらご連絡くださいますようお願い申し上げます。

(出野)



地域社会貢献活動の報告

南丹市の美しいまちづくり条例という条例があり、この条例を円滑に推進するために「南丹市の環境を守り育てる会」という会が設置されています。日吉町森林組合もその会員になっておりますが、これまで地域の美化活動を何かしてきたのかと言うと、特別何かをしてきた訳ではありません（森林環境を守り育てているとは思っておりますが）。他の会員の方々が美化活動を積極的にされているのに、組合が何もしていないのはダメだということ、6月から毎週水曜日の朝（7時半頃から50分頃まで）に事務所前の大通り一帯の清掃活動を始めました。日吉駅駐車場や歩道、側道などの草引きやゴミ拾いが主な活動です。

毎日歩いている道でも、ちょっと注意を変えるだけで、普段気付かなかったゴミが目につきます。車道際をバケツを持って歩いて見ると、多いのがやはり「たばこのポイ捨て」です。家の中では灰皿やゴミ箱にきちんと捨てるのに、外に出てしまうと何故か「ポイッ」としてしまふ。自分の家で、灰皿でないところに友達「ポイッ」と吸い殻を捨ててしまっ

たら「おい。そんな所に捨てたらアカンやろ。ちゃんと灰皿に捨てるや」と必ず怒るんじゃないでしょうか。なのに外に出てしまうと、ポイッとしてしまふ。家の外だって、私たちが住んでいる地球ですから家と同じじゃないでしょうか。外でも自分の家だという意識をちよつとも持てれば、ゴミのポイ捨ては減るのではないのでしょうか。

私たちが働く地域や住んでいる地域の環境をちよつとも良くしていくためにも、これからも毎週水曜日の朝に美化活動が続けていきたいと思えます。



(資料提供・北桑木材センター H28, 7, 6)

スギ	中目	4 m × 18 ~ 24 cm	9,000 ~ 12,000	・スギ
	〃	4 m × 24 ~ 30 cm	12,000 ~ 15,000	元木、二番木、
	柱	3 m × 16 ~ 20 cm	8,000 ~ 10,000	良材、高値。
	〃	6 m × 16 ~ 20 cm	10,000 ~ 12,000	
元木	良材	4 m × 24 cm上	30,000 ~ 40,000	
ヒノキ	柱	3 m × 16 ~ 20 cm	10,000 ~ 12,000	・ヒノキ
	〃	6 m × 16 ~ 20 cm	15,000 ~ 25,000	30cm上の良材
	中目	4 m × 18 ~ 24 cm	12,000 ~ 20,000	は高値。
	土台	4 m × 14 ~ 16 cm	11,000 ~ 13,000	
元木	良材	4 m、6 m共	50,000 ~ 100,000	

皆さんは「ジャーネーの法則」という言葉聞いたことがありますでしょうか。フランスの哲学者ピエール・ジャーネが発したもので、「年を重ねるにつれ1年が短く感じられる」ということを心理学的に解明した」のがこの法則です。

もう少し詳しく言いますと、子供の時の1年は、かなり長い時間に感じていたのが、大人になると「もう7月か。今年も半年過ぎた。この前まで寒い寒い言うたのに、早いなあ」と感じてしまう感覚を解明したのです。

それは、5歳の子供が感じる1年は、5年生きてきた人生の5分の1となり、50歳の大人が感じる1年は50分の1となるため、人生に占める1年の割合が異なります。ですから、今現在進行している時間の体感速度が早いか遅いかではなく、過去を振り返った時に感じる時間の長さの印象が早いか遅いかということ、過ぎる時間の体感が変わるといことです。

またジャーネーの法則とは違い、「新鮮な体験」が時間の過ぎる感覚を変化させるといふことも言われています。

例えば、車を運転して行ったことのない目的地に行くときです。行きは新鮮な風景を感じながらまだかまだかと運転するため、かなりの距離を走った感じがし、帰りは同じ距離を走っているのに「こんなに近かったかなあ」と感じることはありません。これがまさしく「新鮮な体験」による時間経過の感じ方の違いです。

大人になると、「新鮮な体験」をする機会が減り、また過去の経験から、子供と同じく新鮮な体験をしているにも関わらず、どこか新鮮味にかける感じを自ら作ってしまったている気がします。

私も、日吉の山を魅力ある山にしたいという思いは今のほうが強いですが、日々の仕事は新鮮さに欠け、作業をこなしているという感覚が強くなってしまいました。しかし、和歌山県の大西さんと西田さんは、同じような作業でも自ら常に考え、新しいものを発見する意欲に富んでらっしゃいました。お二人のように常に新しいものを発見し、全てに学ぼうという意識を忘れず、目標をもってチャレンジし、37分の1の1年を突りある1年（今年は後半年ですが）にしようと思えます。

(小林)